

市民公開講座

いのちの授業

～考えよう、いのちの大切さ～



画:平岡 駿也

いのちを考えるー。

将来を担う子ども達の生きる力と日々向き合う教育現場。

新たに生まれるいのちと終末を迎えるいのちに日々直面している医療現場。

「生きるとはどういうことか」「死とはどういうことか」

いのちの尊さを子ども達と一緒に、考えてみませんか。

日時 平成20年 **5月25日** 13:30～17:00 [開場 13:00]

場所 **広島県民文化センター 大ホール** 広島市中区大手町一丁目5-3
TEL. 082-245-2311

参加費 **1,000円** ※参加券発行中(当日受付も可)
(うち寄付金1円)

主催:市民公開講座「いのちの授業」実行委員会
共催:日本死の臨床研究会 中国・四国支部研究会

後援:広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会、広島県医師会、広島市医師会、広島県PTA連合会、広島市PTA協議会、広島県看護協会、広島県病院薬剤師会、日本尊厳死協会中国支部
中国新聞社、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、ライフサイクルカルチャークラブ、緩和ケアを考える会・広島
協賛:広島大学麻酔蘇生学教室同門会、広島もみじライオンズクラブ、NPO法人がん患者支援ネットワークひろしま、NPO法人住環境研究会ひろしま



開催趣旨

いじめによる自殺や青少年による殺傷事件が相次ぎ、いのちの大切さを伝える教育の必要性が指摘される一方、乳幼児の放置や児童虐待など、大人の側もいのちを軽視するという深刻な事態が起きています。

医療現場は、新たに生まれるいのち、終末を迎えるいのちに日々直面しています。新たに享けた生が健やかに育つように、また、終末期を迎える患者が、限られた時間の苦しみの中でも、明日への夢を抱き、穏やかに力強く生きられるように、いかに支え援けていくかが課題となっています。

この講座では、将来を担う子ども達に生きる力を教育する学校現場の教員と、医療現場の専門家が講師となり、教室での模擬授業を再現する形で、いのちの尊さや大切さを再認識し、輝く人生につなげるにはどうすべきか、子どもたちと一緒に考えていきます。

プログラム

総合司会：藤本 真弓(小網町麻酔科クリニック 院長)



藤本 真弓

13:30～13:40 開会挨拶

13:40～14:40

1
限目

「いのちの授業」

いのちの大切さを伝えるだけでなく、たとえ苦しくても、誰かを傷つけない、自らの命を絶たないためにはどうしたらよいかを一緒に考える。

講師：小澤 竹俊(めぐみ在宅クリニック 院長)

生徒：広島県立広島中学校の皆さん

参観者：広島県内のPTAの皆さん



小澤 竹俊

《休憩(10分間)》

14:50～16:50

2
限目

「生きる力を育む授業」

“生きる力”を育てる様々な授業について、広島県の教育、医療の専門家が事例を踏まえ、「いのちの授業」の目的やあり方について、様々な立場から話し合う。

コーディネーター：後藤 昇(広島大学大学院 教授)

パネラー：野中 春樹(広島なぎさ中・高等学校 教諭)

河野 政樹(広島県立障害者療育支援センターわかば療育園 医療科)

榊原和歌子(広島赤十字原爆病院 助産師)

棚多 里美(広島県子ども家庭支援室児童虐待防止・DV担当室長)

コメンテーター：米谷 剛(広島県立広島中学校 教頭)



後藤 昇



野中 春樹



河野 政樹



榊原 和歌子



棚多 里美



米谷 剛

16:50～17:00 まとめ、閉会挨拶